



学校だより

12月号

横浜市立大道小学校
令和4年11月30日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「なかよしあいさつ週間」

一週間ほど前から、サッカーワールドカップの話題で持ち切りです。今回は、強豪国と同組となり、厳しい戦いが予想されていましたが、初戦のドイツ戦でまさかの逆転勝利を上げました。森保監督は、試合直後の円陣で、選手たちに向かってこう叫びました。「素晴らしい勝利だ!みんながやるべき準備をしてきて、粘り強く戦う。そして結果が出る!みんなの努力が結果に出てよかったよ!」私は、「やるべき準備」という言葉が印象に残りました。ドイツの猛攻に粘り強く対処し、最小失点に抑えたのも、試合の流れを変える戦術の変更や選手交代も、すべては様々な場面を想定した「準備」があったからこそだと思われまます。サッカーだけでなく、何か「目標」に向けて取り組む時には、こうした具体的で、明確なねらいをもった「準備」が大切だということでしょう。(コスタリカ戦は残念な結果でした。スペイン戦に望みをかけたいものです。)

さて、学校では今週から「なかよしあいさつ週間」が始まりました。これは、1~6年生からなる「なかよし班」のグループで門や昇降口に立ち、朝登校してくる友達を明るい「あいさつ」で迎えようという活動です。企画したのは児童会の「Love&Happy 運営委員会」で、「今年度の児童会テーマ『パワー』がますます高まり、朝から元気なあいさつの声が響く学校にしたい。」と考えたそうです。6月には委員会の児童だけで「あいさつ運動」を行いました。今回は昨年に引き続き、全校の児童で取り組もうというものです。

まだ始まったばかりなのですが、1~6年生が並んで立ち、「おはようございま〜す。」と大きな声であいさつをする姿は微笑ましく、明るい気持ちになります。

異学年交流の「なかよし活動」は、6年生がグループのリーダーとなり、1~6年生と一緒に活動します。今年度も、これまでに集会や遊び、全校遠足の取組などを通して、異学年同士のつながりを深めてきました。活動の中で、6年生は下学年の子たちのことを考えて計画を立て、優しく接したり、分かりやすく話したりする姿をたくさん見ることができました。また、下学年の子も、上級生の言うことをよく聞いて活動を楽しんでいます。ですから、「なかよし活動」が高学年にとっては、規範意識や相手の立場を考える優しい心を育てるよい機会になっています。また、低学年にとっては、上級生の姿から学び、「私が6年生になったら...。」という、前向きな気持ちをもつきっかけになっていると思われまます。

この「なかよし活動」が、従来の「楽しい活動」だけでなく、「なかよしあいさつ運動」のように、「みんなが気持ちよく生活できるようにするための活動」へと広がっていくことで、さらにその意義が深まると考えまます。今まで培ってきた異学年同士の「つながり」によって、「よりよい生活をつくっていく意識を子ども自らが高め合う」ことにつながるからです。

大道小の「明るくあいさつができる」というよい習慣が、さらに定着していったほしいと思います。

今年も残すところあと1か月となりました。皆様、よいお年をお迎えください。